

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

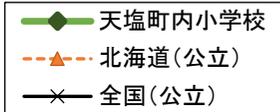
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

IRTとは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学カスコアを推定する統計理論。500を基準にしたスコアで表示。

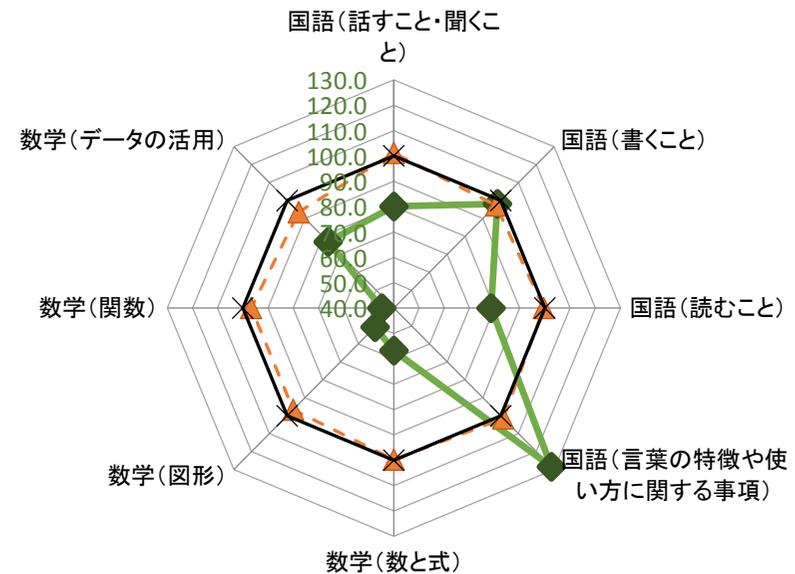
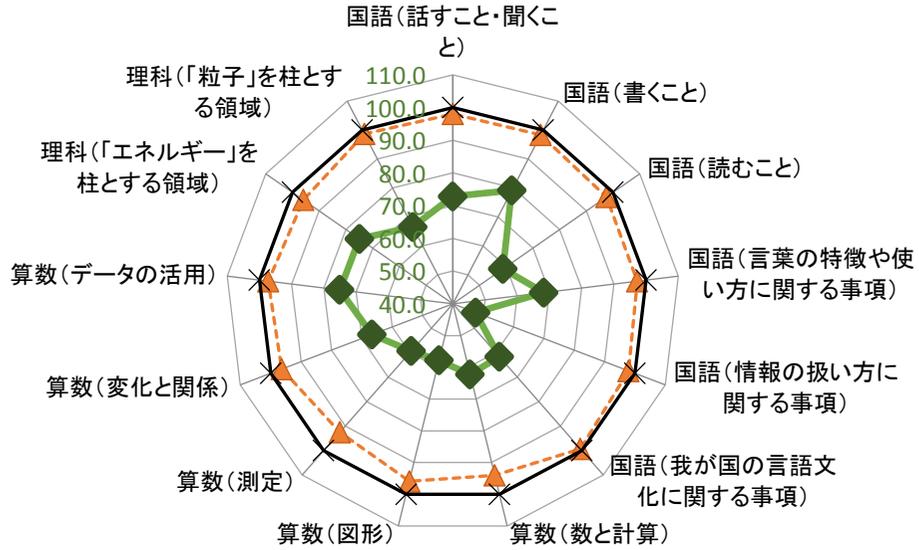
中学校理科	
天塩町	468
北海道(公立)	505
全国(公立)	503

中学校理科は平均IRTスコア

小学校



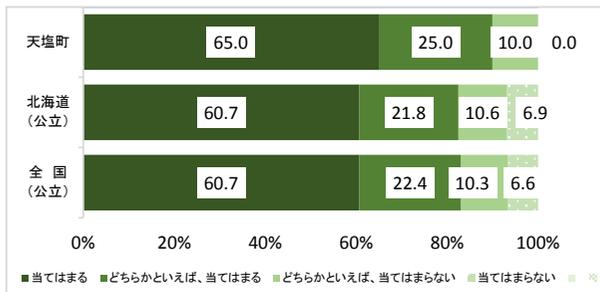
中学校



○ 質問調査の状況

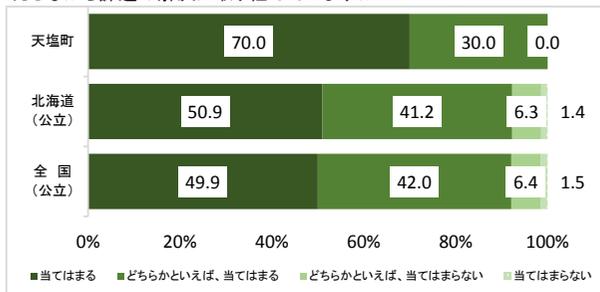
小学校  
＜児童質問＞

将来の夢や目標をもっていますか



小学校  
＜児童質問＞

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



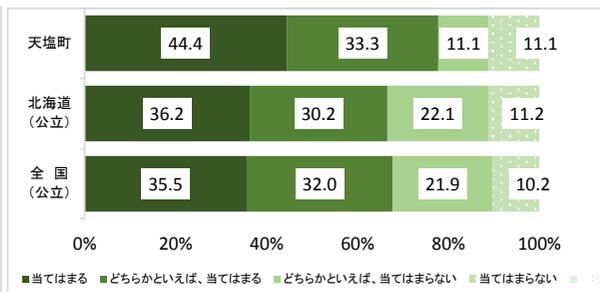
小学校  
＜児童質問＞

国語の授業の内容はよくわかりますか



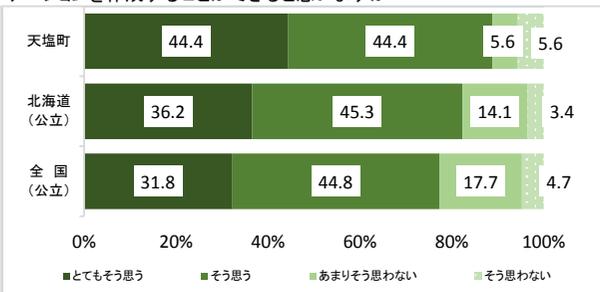
中学校  
＜生徒質問＞

将来の夢や目標をもっていますか



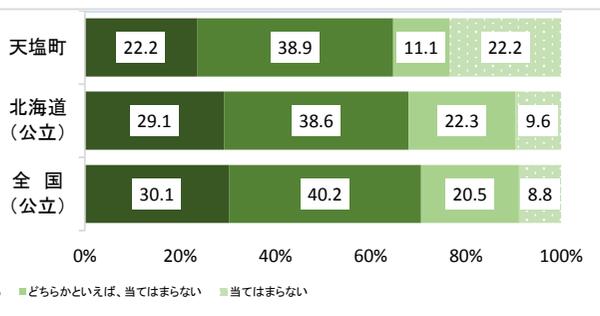
中学校  
＜生徒質問＞

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができますか



中学校  
＜生徒質問＞

数学の授業の内容はよくわかりますか



○ 分析結果

・小学校において、授業や学校生活で、児童が自分の考えを説明したり相手の意見をしっかりと聞いたりして話し合い活動を行ったことにより、「お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

・中学校において、生徒が自分の考えをまとめ、発表や表現をする場面で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、教科や総合的な学習の時間で「自分の考えや調査した内容をプレゼンテーションを作成することができる」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

・小学校及び中学校の国語、算数数学の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、国語、算数数学の「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。

○ 今後の改善方策

・児童生徒の確かな学力の定着に向けて、ねらいが明確で、児童生徒が主体的に取り組む授業の継続的な実施

・ICT端末を効果的に活用した授業実践及びICT機器を活用した学習支援ソフトによる基礎学力の定着に向けた取組の推進

・小・中学校における確かな学力の定着に向けた外部講師による学習支援や、長期休業中における「学習サポート事業」の実施